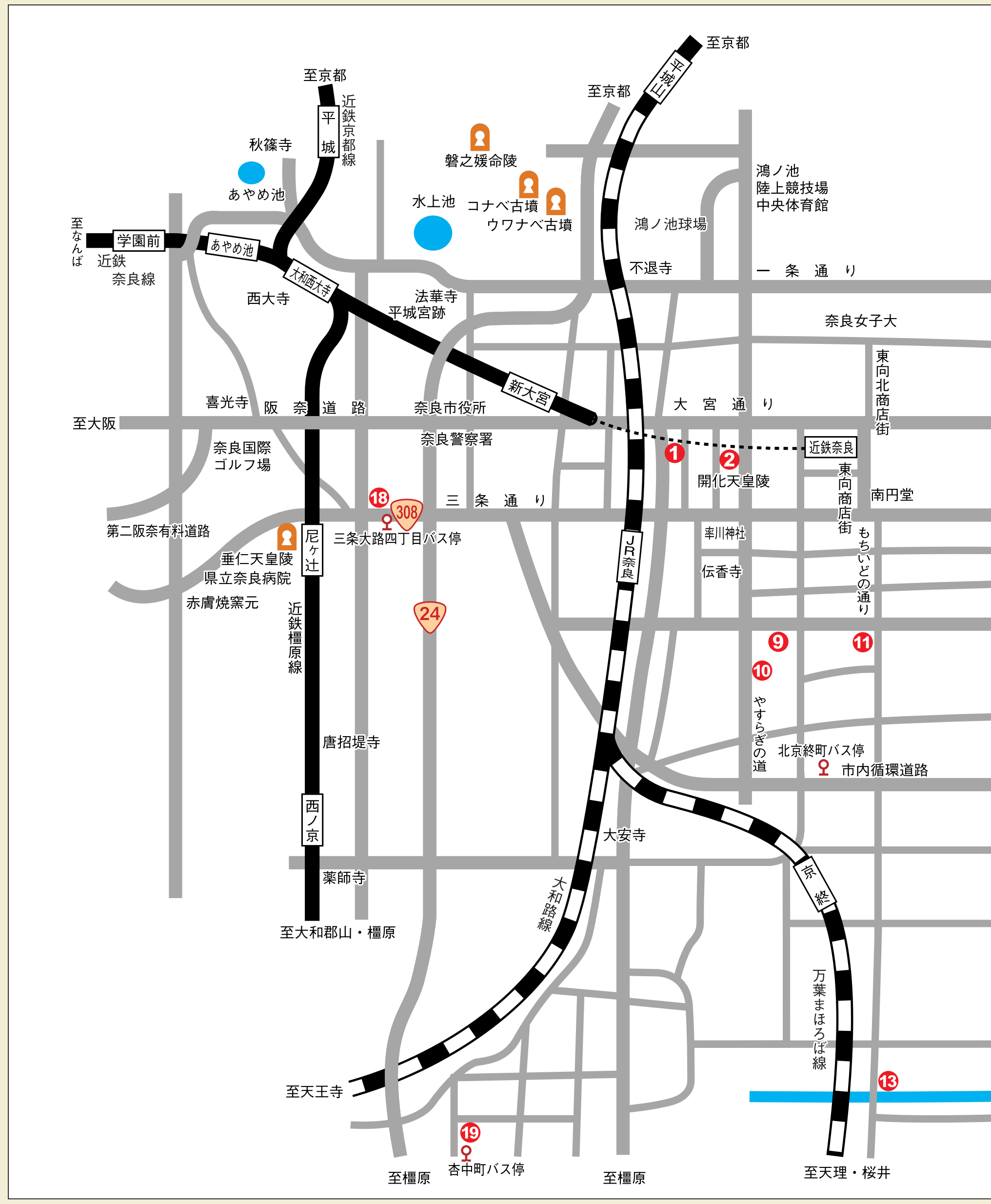
ならじんけん まっぷ I

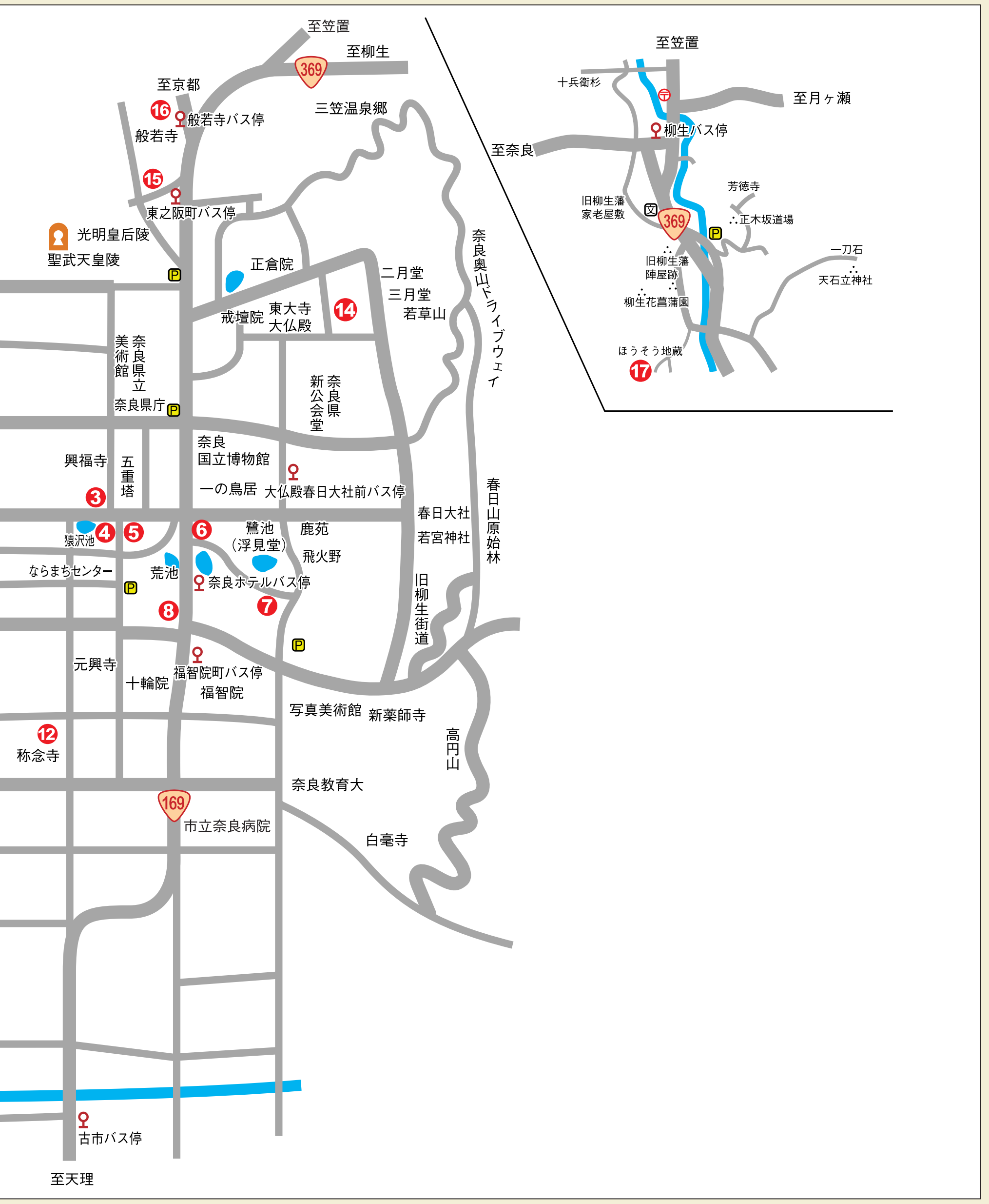
奈良の歴史に光感じて

2002

①松井庄五郎頌徳碑　②林神社　③興福寺南大門跡
④植桜楓之碑　⑤菩提院大御堂　⑥影向の松
⑦天神社　⑧名勝大乗院庭園　⑨十念寺と北・南風呂町
⑩悲田院



⑪鎮宅霊符神社と陰陽町　⑫木辻遊郭跡と遊女の墓　⑬市営屠場跡
⑭辛国神社　⑮北山十八間戸　⑯般若寺
⑰柳生磨崖碑　⑱ＲＲセンター跡　⑲米田庄太郎生誕の碑
○地蔵　○恵比須神社



「大仏殿虹梁木曳図」（部分）

①松井庄五郎頌徳碑

松井庄五郎は、全国的に有名な部落改善運動の指導者で、1912（大正元）年8月、奈良市西之阪町明光寺において「大和同志会」の創立大会を開催し、その初代会長に就任します。「大和同志会」は教育の発展を期し、奨学金制度を設けたり、宗教の刷新や殖産興業などを会の活動目標とし、後の水平社の結成に参加する多くの人材を生み出しました。

ＪＲ奈良駅から東北へ約0.4km

②林神社

漢国神社の一角には、南北朝時代、中国から渡来し、中国の饅頭の製法を工夫し、現在食している饅頭として作りはじめた林浄因を祀る林神社があります。浄因の徳を偲んで4月19日には饅頭祭りが行われています。浄因に饅頭の製法を学ぶ人たちの姿に思いをめぐらせたとき、何気ない饅頭の一つにも、国際交流の豊かさが詰まっているような気がします。

近鉄奈良駅から南西へ約0.3km

③興福寺南大門跡

毎年5月11日、12日の両日に開催される薪御能の舞台となっています。ここで演じられる能は猿楽から観阿弥・世阿弥によって大成されましたが、この時代、猿楽師は「乞食の所行」と蔑視される立場でした。

能は言うに及ばず今日の日本の諸芸能を支えてきたのはこうした被差別の立場の人々だったことはあまり知られていません。

近鉄奈良駅から東南へ約0.7km

④植桜楓之碑

川路聖謨は、1846（弘化3）年～1851（嘉永4）年に奈良奉行として、拷問の廃止、貧民救済の為の基金づくりを行いました。

また興福寺や東大寺の境内の植樹を人々に呼びかけ、奈良公園整備の基礎を築きました。「植桜楓之碑」はその記念碑です。一方あまり知られていませんが、被差別民衆の医療知識の豊かさや皮革技術の高さに心酔するなど、被差別民衆との交流も活発でした。

近鉄奈良駅から東南へ約0.7km

⑤菩提院大御堂

奈良の鹿は春日大社の神の使いとして神聖なものと特別扱いされ、鹿を虐待したり殺害した者は重い罪を受け、鹿と一緒に石を抱き合わせて生き埋めにされたという伝承があります。これを石子詰の刑と言います。そして、その加害者の探索・捕縛や処刑は被差別の立場の人があてられました。こうした被差別民衆の刑吏的職掌（職務）はそれまでの神聖な任務を執行する見方から賤業視へと転換し近代へと受け継がれていきます。

近鉄奈良駅から東南へ約0.8km

⑥影向の松

毎年12月17日を中心に催されるおん祭りは五穀豊穣、国民安寧を祈願して行われる春日大社の摂社若宮社の祭礼で1136（保延2）年に始められたと言われています。

ここ影向の松は、本祭礼の松の下式が行われる場所です。この祭りは大和一国の祭りといわれたぐらい大和の国中のさまざまな人たちが参勤したり費用を負担したりして祭りを支えてきました。古くは当時の被差別の立場の人々も渡御行列の先頭に立ち行列を穢れから守る役割や舞楽に使われる鼉太鼓の皮張りの細工人などとしてこの祭りを支えていました。

近鉄奈良駅から東南へ約0.9km

⑦天神社

興福寺の子院のひとつ大乗院家の氏神であった天神社(天満社)の小五月会という鎌倉時代から続く祭礼の費用負担をさせられていたのは奈良の町々でした。これまで小五月会はその町々の人々の祭礼とされていましたが、実際には興福寺・大乗院・春日大社等、当時の奈良の町を支配していた人々の祭礼であったのです。中世奈良町の人々は支配被支配の関係の中で支配者の祭礼費用まで押しつけられていたのです。

しかし、時を経て今や近隣31町約800戸の氏子たちによって大切に祀られています。

奈良交通天理方面行き「奈良ホテル」バス停下車東へ約0.3km

⑧名勝大乗院庭園

中世の奈良や京都の文化形成に被差別民衆は大きな役割を果たしました。特に名園といわれる多くの庭園は山水河原者とよばれた被差別の立場にあった人々の手によるものです。この庭園は、当時の庭師の第一人者である善阿弥が大乗院から依頼され15世紀末に改造したものと伝えられ、善阿弥が関与した奈良で唯一の庭園遺構として貴重なものです。

奈良交通天理方面行き「福智院町」バス停下車すぐ

⑨十念寺と北・南風呂町

北風呂・南風呂町の地名の由来には諸説がありますが、かつて風呂は病気を治すための社会福祉施設であり、隣接する南城戸町には悲田院があることや、鎌倉時代に貧民救済につとめた僧忍性の創建という伝承が残る十念寺が存在することなどから、病人救済用の風呂が存在したことが考えられます。その十念寺には今も、忍性の供養塔と伝えられる五輪塔が残っています。

近鉄奈良駅から南へ約0.7km

⑩悲田院

悲田院とは、病貧救済の施設のことで、奈良時代、興福寺に創建されたのが最初です。中世以降は、「非人」と呼ばれる被差別民衆が集団居住した集落を指すようになります。そして、江戸時代以降は、部落問題と深い関わりを持つようになります。そこには、中世以来「悲田院」に収容されていた人々が、穢れを清める仕事をしていたことと関係があるのではないかといわれています。

ここ阿弥陀寺の悲田院は、中興の専阿古山上人が悲田院跡と呼ばれている土地に居住し堂を建てたという言い伝えから、境内に1995（平成7）年に再建されたものです。

近鉄奈良駅から南へ約0.7km

⑪鎮宅霊符神社と陰陽町

戦国時代の終わり頃から明治の中頃まで、奈良町の一角では暦（奈良暦）が作られていました。暦を作っていた町の名は陰陽町、作っていた人は特別な能力を持つとされた陰陽師。

江戸時代の建物もいくつか残るこの町並みの中に、「鎮宅霊符神社」の額がかかる霊符神社があります。境内には伊邪那岐命が禊祓いをしたとき、海の中から生まれたという謂われのある底筒男命、中筒男命、表筒男命が祀られています。

近鉄奈良駅から南へ約0.8km

⑫木辻遊郭跡と遊女の墓

戦国時代末から江戸時代にかけて女性の性の売買は、社会秩序を維持するために公権力が管理するようになり、その形態は1958（昭和33）年の「売春防止法」の施行まで続きます。明治に入ってこうした公娼制度を支えていた年季奉公という名目の人身売買は1872（明治5）年「芸娼妓解放令」によって法的には禁止されますが、生活保障等が整備されなかったために実際上の意味を大きく持ち得ませんでした。近くの寺院には、娼婦たちの墓が残っています。

奈良交通市内循環「北京終町」バス停下車北へ約0.2km

⑬市営屠場跡

1906（明治39）年の「屠場法」に基づき、この地に市営屠場がオープンしたのが1909（明治42）年7月のことです。屠場法は「斃牛馬勝手処理令」後の混乱を収束し、衛生面等での改善に寄与しましたが、1953（昭和28）年に廃止されるまで、「儲けは市町村、差別は屠場で働く人々」の仕組みを固定化したため、従事する人々への差別のまなざしは払拭できませんでした。

奈良交通天理方面行き「古市」バス停下車西へ約0.2km

⑭辛国神社

古代、わが国には朝鮮半島から新しい文化や技術の担い手たちが渡来し、政治・経済・文化の全ての面で強く、深い影響を与えました。大仏建立に際しても「今来才伎」と呼ばれる半島から渡ってきた技術者が活躍します。この神社はそうした人々と何らかの関係をもった人々が祀ったものと思われます。朝鮮半島から日本に移住してきた人々が日本で果たした役割を思い起こしてほしいものです。

奈良交通市内循環「大仏殿春日大社前」バス停下車北へ約0.7km

⑮北山十八間戸

伝説によれば、光明皇后が創始したとされていますが、鎌倉時代、僧忍性がハンセン（癩）病者救済のために営んだとみられています。我が国最古の“救癩施設”であり、人権史上の重要史跡として末永く保全されるべきものであります。

奈良交通青山住宅方面行き「東之阪町」バス停下車西へ約0.2km

⑯般若寺

般若寺は飛鳥時代に高句麗の僧慧灌法師により創建されたと伝えられています。

1180（治承4）年に平重衡の南都の焼き討ちにあい灰燼に帰してしまいますが、鎌倉時代に西大寺の僧叡尊によって再興されました。今はコスモスの寺として有名ですが、身よりのない病人や「乞食」、あるいはハンセン病に苦しむ人々の拠り所として、現代でいう福祉事業が展開されていました。

奈良交通青山住宅方面行き「般若寺」バス停下車西へ約0.3km

⑰柳生磨崖碑

柳生町の地蔵菩薩像のすぐ横に「正長の土一揆（1428年）」を記念した石碑があります。「正長元年ヨリサキ者、カンヘ四カンカウニ、ヲヰメアルヘカラス」という文字が刻まれています。一揆によって発令された徳政により奈良市東方の大柳生・小柳生・坂原・邑地の神戸四カ郷の人々の借財は帳消しになりました。自らの生活を守ろうと懸命に活動した室町時代の農民の精神を伝える貴重な文化財です。

奈良交通柳生方面行き「柳生」バス停下車南へ約1.3km

⑱RRセンター跡

ＲＲセンターとはレストアンドレクレーションセンターのことで、朝鮮戦争に出かけたアメリカ兵の娯楽慰安施設として1952（昭和27）年この地に開かれました。しかし、その周りにバー・キャバレーが建ち並び公娼街を含むアメリカ人用歓楽街が出現するや風紀上、教育上のゆゆしき問題へと発展します。そして学生が中心となって調査を行い、その実態を明らかにするとともに移転キャンペーンが展開され、その結果、翌年、神戸へ移転します。

奈良交通六条山方面行き「三条大路四丁目」バス停下車すぐ

⑲米田庄太郎生誕の碑

1873（明治6）年にこの地で誕生した米田庄太郎は、京都帝国大学（現　京都大学）の教授となり、研究を進め日本の社会学の確立に尽力しました。労働問題など現実的な問題に対しても、心理的な側面を重視する立場から積極的に発言をし、社会思想研究にも道を開きました。彼がこのような立場に立ったのは、自らが受けた部落差別がどのような問題であるかを解明したいという思いがあったのではないでしょうか。

奈良交通杏中町行き「杏中町」バス停下車北へ約0.3km

○地蔵

市内のあちこちにあるお地蔵さんは、私たちのかわりに苦しみを受けてくれる仏で、本名は大地胎蔵仏といいます。全国にあるお地蔵さんのいわれなどを調べていくと、生命や福祉そして人権というキーワードに出会います。人権を侵害され、地獄のような生活を強いられた時、人間の前に立ち現れてくださるのがお地蔵さんなのです。日本の長い歴史の中で、民衆の人権確立を願った産物と言えるのではないでしょうか。

○恵比須神社

日本の神話の中では、えびすさんは生後3年経っても足が立たないという障がいをもった身であったとされています。このえびすさんが福の神、商業守護神、市神として神格化されていく経緯の中に障がいを持って生まれてきたことに特別な意味を見いだし、大切にしてきた我が国の歴史があります。「えべっさん参り」をとおして商売繁盛を願うだけでなく、違いを認めあい、障がい者と共に生きる社会の実現を願ってほしいものです。

世界遺産のあるまち奈良の「じんけんまっぷ」を作成しました。

命の大切さや人間の尊さを守るために先人たちが注いできた情熱や努力の結晶を、今を生きる私たちが、ふれあいそして学びあい人権について一層の理解を深めていただければ幸いです。

なお、この資料を転載されたり、教材としてご利用される場合は、人権啓発課までご相談下さい。

発行　奈良市人権啓発課
〒630-8106
奈良市佐保台西町114番地の3
電話　0742-72-1510
監修　古市歴史研究会

参考文献：「なら人権スポット探訪」